

支援者側から見た通級指導の役割と今後の課題について

C119001 關川 ひより

神戸市では、全国に先駆けて独自の通級指導教室体制で支援を行っている。しかし、神戸市の通級指導教室での支援内容についての研究がなされていない。

本研究では、神戸市の通級指導教室での支援内容や役割、今後の課題について具体的・実証的に明らかにすることを目的とし、神戸市内の通級指導教員としての勤務経験を持つ3名を対象に、作成したインタビューガイドを用いて半構造化面接を実施した。その後、逐語記録を作成し、KJ法を用いて整理、分析を行った。

本研究の結果、インタビューでの5つの質問に対して、ラベルからそれぞれ5~7のカテゴリーに分類することができた。通級指導教室では、生きづらさや障害特性に応じた支援がなされており、「そだちとこころの教室」では、自尊感情や自己効力感を育むための支援、「きこえとことばの教室」では、障害特性に応じた支援が重視されていることが示された。本研究では、小学生の事例について明らかにすることができなかつたため、今後の課題として挙げられた。

個人の特性や観念、経験と障害者へのステレオタイプとの関連性についての検討

C119019 高橋龍二

障害者への態度やステレオタイプに関する先行研究において、障害者を障害別に分けて研究しているものが多く散見された。また、障害者側の特性に焦点を置いた先行研究が多く、健常者側の特性に着目した先行研究はあまり確認されなかつた。以上を踏まえ、本研究では個人の特性や観念、経験が障害者へのステレオタイプに及ぼす影響を検討することを目的とし、先行研究でほとんど検討されてこなかつた拡散的好奇心などの様々な次元と障害者へのステレオタイプとの関係性について検討を行った。分析の結果、年齢差すなわち世代間の次元の特に親世代において、その他の次元と障害者へのステレオタイプとの間に多数の.20以上の相関関係が確認された。本研究の知見に基づき、先行研究でも用いられた次元については先行研究との比較を行い、本研究で新たに加えた次元については障害者へのステレオタイプとの関連性について先行研究を交えて様々な考察を行った。

映像の違いによる楽曲の印象差の検討

C119069 藤原彩有

本研究では、映像の有無や映像素材の違いにより、楽曲を聞いた際に印象に差があるかを検討することを目的として実験を行った。調査には、大学生と大学院生の合計 46 名が参加した。実験の結果、楽曲に自然映像が合わさることで、楽曲を「はっきり」と感じさせることが示された。使用した映像素材に映る場所や、前進する動画の動きが、印象の評定に影響を及ぼしたと考えられる。さらに、音楽作成ソフトの波形映像が合わさることで、「地味な」印象評定が行われた。波形群は、動画内で動きのある部分が少なく、映像の印象が評定にも影響を及ぼしたと推測される。加えて、映像が無い音声群内において、音楽経験がある群がない群に比べて楽曲を「なめらかな」と感じる評定に差が表れた。音楽経験の差と、実験素材で用いた楽曲の速度が、リズムの知覚と評定に影響を及ぼした可能性がある。今回の研究結果は、様々な音楽動画の作成に役立てることが期待される。